こまりんだより

令和2年10月号

<10月の予定>

◎稽古時間:　木曜日・・・17:00～19:00(稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
　　土曜日・・・15:00～17:00(稽古場所は本太中学校修道館)

<11月の予定>

◎稽古時間:　木曜日・・・17:00～19:00(稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
　　土曜日・・・15:00～17:00(稽古場所は本太中学校修道館)

■14日(土)　保護者会 15:30～(本太中学校修道館)

<12月の予定>

◎稽古時間:　木曜日・・・17:00～19:00(稽古場所は針ヶ谷小学校体育館)
　　土曜日・・・15:00～17:00(稽古場所は本太中学校修道館)

■12日(土)　一級審査・合同稽古会
■19日(土)　クリスマス会(本太中学校修道館)
■26日(土)　駒剣稽古納め
■未定　埼玉大学寒稽古

※状況により中止や稽古場所の変更があります。
詳細等はslackをご確認下さい。

本荘先生からのお言葉

気持ちの良い青空が広がる季節になりました。暑くもなく寒くもなく、最も稽古しやすい時期と言えるのではないでしょうか。稽古するときはしっかりやり、終わったら他のことに時間を有効に使う、そんなメリハリをつけた生活を心がけるといいと思います。

さて、稽古を再開して3か月が経ちました。ガイドラインを作成し密を避け衛生面に気を配りながらここまで来ましたが、幸い感染者等出すことなく継続して稽古ができています。ありがたいことであると、関わる方々や会場を提供してくださっている学校などに感謝の気持ちでいっぱいです。世の中はイベントの観客数の拡大や旅行などの人の移動の推奨など規制緩和の方向で動いていますが、楽観視できる状況には未だなってはおりません。ひきつづき、面マスクを着用しての稽古や密を避ける行動のご協力をお願いいたします。

市内中学校の新人戦が今日から3日間、大宮武道館で開催されます。保護者の応援不可、試合会場を6から4に減らし密を避ける、検温等の実施、外部（剣道連盟）の審判を依頼しない等、いつもと違った形式での大会になるようです。直接の応援はできませんが、駒剣OB・OGの活躍を期待しています。どんな試合ぶりであったか後日報告をお願いします。

小学生にとってはいろいろな大会が中止になり物足りなさを感じていることと思います。先輩たちがやってきたこと、例えば６月の浦和剣道大会で上位になり強化選手として強化練習会に参加し県大会に出場することなどができません。「なんで今年は・・・」と思っちゃいますし、夏の合宿もなくなりつまらないですよね。よくわかります。ただ、私は小学生の段階でやたらたくさん試合を行わせることには賛成しかねています。このコロナ禍で全体的に試合、試合、そして錬成会ばかりとなっていないことはむしろ子どもたちに好影響があるとも思っています。９月１２日（土）の稽古の時に久しぶりの試合稽古をやりました。４つのチームに分け団体戦を、皆良い試合をしていました。特に上級生がしっかり有効打を取れていました。力はついています。試合は、中学生になると練習試合を含めて嫌というほど行います。それまでにしっかりとした基本を身につけ、地力をつけておくことを意識してください。

とは言え、ちゃんと試合稽古も入れていきますし、時期が来たら対外試合のようなものもやりたいと思っています。ご安心を(#^.^#)

今月は昇段審査を受ける成人会員さんが多くいるようです。面マスクをつけた状態で立ち合いを行うので、声の大きさは審査の対象から外すと通達がありました。ただ、発声してはいけないということではないですので、自らを鼓舞し相手を圧倒する気迫をもって審査に臨んでください。皆さん、よく稽古されていました。自信をもって当日を迎えてください。ご武運を祈っております。

太郎の百錬自得

第 76 回

あんなに暑かったのが、嘘のように涼しくなってきました。剣道の稽古にはちょうど良いかもしれません。１０月は祝日も今年はなく淡々とすぎていく気もしますが、今年もあと3ヶ月切ります。気を引き締めなおして過ごしていこうと思います。

駒剣では徐々に試合もやり出しています。そこで、有効打突とは何か、今月は考えてみましょう。

有効打突は、剣道試合・審判規則の第２節第１２条にあります。

「有効打突は、充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。」

これだけだと曖昧な部分があるので、細則で補足されています。
「刃筋正しく」とは、竹刀の打突方向と刃部の向きが同一方向である場合とする。

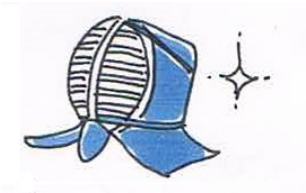
次の場合は有効とすることができる。
１．竹刀を落とした者に、直ちに加えた打突。
２．一方が場外に出ると同時に加えた打突。
３．倒れた者に、直ちに加えた打突。

次の場合は有効打突としない。
１．有効打突が両者同時にあった場合（相打ち）。
２．被打突者の剣先が相手の上体前面に付いてその気勢、姿勢が充実していると判断した場合。

続く第１３、１４条には、竹刀の打突部と打突部位について書かれています。

「竹刀の打突部は、物打ちを中心とした刃部（弦の反対側）とする。」

打突部位は次のとおりとする。
１．面部（正面および左右面）
２．小手部（右小手および左小手）
３．胴部（右胴および左胴）
４．突部（突き垂れ）



細則も記載します。

打突部位は、図のとおりとし、面部および小手部は、次のとおりとする。
１．面部のうち左右面は、こめかみ部以上。
２．小手部は、中段の構えの右小手（左手前の左小手）および中段以外の構えなどのときの左小手または右小手。

また、「剣道試合・審判・運営要領の手引き」という別冊にも、有効打突の説明があります。

有効打突（気剣体の一致）
理合（正確な打突）－　要件　姿勢、気勢（発声）、打突部位、竹刀の打突部位、刃筋
　　要素　間合、機会、体捌、手のうちの作用、強さと冴え
残心｜構え　気構え、身構え

その他、有効打突に大事そうな部分を抜き出して記載しておきます。

打突そのものが軽くても「玄妙な技」などは技の質として一本に取れる場合がある。
安易に相打ちで済ませず、相打ちはまず無いと考えて対処しなければならない。
「先」の技を決めてからの残心と、応じて技を決めてからの残心とでは残心の内容に違いがある。応じ技などは瞬間的に残心をとる場合もある。

大体以上が有効打突の公式な説明になります。
ちょっと内容が多くて覚えにくいかもしれません。

まずは、「有効打突は、充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。」

この部分を覚えておくといいでしょう。
そして、竹刀の打突部は、物打ちを中心とした刃部。打突部位は、突部を除いた面小手胴だということですね。

打突部位は、しっかり頭に入れておきましょう。

・面もこめかみ部以上の左右面も打突部位だということ
・小手は拳ではなくて筒部で、振り上げた状態の時は、左小手も打突部位だということ
・胴は右か左かのどちらかで真ん中は打突部位にはなってないということ

この辺りは、意外と知らない人もいるんじゃないかと思いますので、特に覚えておいてほしいです。

有効打突のことを知ったら、普段の稽古で意識することも変わってくるんじゃないかな。では、今月も稽古を楽しく頑張りましょう。

～練習風景より～

１０月１日（木）６年生は
審判講習会を行いました。

よーく見てピシッと旗を
あげます。

新ジャイアンのはなうた♪

よっ！　みんな，元気か？

だいぶ涼しくなってきて，剣道には，いい季節がやってきたな。
マスク剣道にも慣れてきたし，結構きつい稽古もできるようになってきたな。
ジャイアンも，そろそろ本格的に稽古して，ダイエット始めようかな？

さて，今日は，「一本」について，考えてみるぞ。
みんなは，稽古でも試合でも，「一本」を取るようがんばっているよな。
じゃあ，どういうときに「一本」ってなるんだろう？

試合をしていると，面や小手，胴に当たったのに審判がはたを上げてくれないなんてことがあるよな。そんなとき，みんなはなぜ審判が上げてくれないか，考えているかな？審判の先生方は，何となく強く当たっているからとか，この子の方が強そうだからっていうことではたを上げたりするんじゃないことはわかるよな。
では，どういう時に一本になるのかな？

実は，剣道には，「剣道試合・審判規則」っていうのが定められていて，その第12条に有効打突（つまり一本）についての条文があるんだ。（なんだか，法律みたいだな。）
そこには，
「有効打突は，充実した気勢，適正な姿勢をもって，竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し，残心のあるものとする。」と書いてあるぞ。
なんだか，むつかしい感じがするな。でも，ちょっと考えると実はみんながよく知っている言葉になるぞ。
「充実した気勢」ってことは，簡単に言ってしまえば大きな気合を出すってことだな（気）。そして，「適正な姿勢」ってことは正しい体勢で打つってことだ（体）。「竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し」とは，竹刀の中結（なかゆい）よりも先の部分で面，小手，胴の正しい位置を，竹刀が刀だとすればちゃんと切れるように打つってことだな（剣）。そして残心はわかるよね。こう考えると，実は，「一本」として認められるためには，「気剣体」＋「残心」が必要だということがわかるよな。

カンの良いみんなは，なぜ，駒剣の手ぬぐいに「気剣体」って書いてあるか，もう分かったよな。大切なのは，
「気剣体」＋「残心」＝1本
だぞ。

駒剣の中や，大会などで，試合を見ることがあると思うけど，打突部位に当たっているのに一本にならない場面をみたら，「気剣体」＋「残心」の何が足りなかったのか，考えてみたり，近くの友達や先生と話してみるのも面白いし，自分の剣道の成長にもつながると思うぞ。

じゃあ，またな！

威風胴々_No.4

清水　聡

前回は、蛇の革を貼ったお話をしました。今回も「貼る」がテーマのお話です。
実は、一般的な漆塗りの竹胴も“あるもの”が貼られています。
胴台は幅が 10 ㎜～20 ㎜程度の短冊状の竹を並べてベース部分が作られます。その竹がドーム状に組まれた後に、表面に接着剤を塗って白い布が貼られます。更にその上に接着剤を塗って牛革が貼られているのです。
漆塗りはその牛革の表面に塗られます。
防具の製作過程がわかる Youtube がありましたので参考にどうぞ。
https://www.youtube.com/watch?v=mL8uxqjL5aU
「THE MAKING　（１５６）剣道具ができるまで」

この牛革の上に漆を塗らないで仕上げられた胴を、「生地胴」と言います。“生地”＝“何も手を加えない”という意味です。本来の生地胴は、裏側も朱色や黒などの塗装はされません（右図：齋田先生の生地胴です）。工程が少ないので安価であることから、昔は特に子供用の稽古胴として一般的な物でした。現在の子供用の胴はファイバー胴やヤマト胴という大量生産が容易にできるものに変わってきたので生地胴は少なくなりました。生地胴は打たれ傷や剣道着などの藍が付着しやいのですが、稽古を重ねて月日の経過とともにその風合いの変化を楽しむという大人が増えています。最近では、生地胴の種類が増えていますので一部を紹介します。

「拭き漆」（薄目） 牛革の素材は生かしつつ、漆を少量塗ることで耐久性を向上させたものです。木製のお椀や箱には昔から使われていた漆塗りの技法です。牛革の上に漆を塗って、直ぐに布で漆を拭き取ります。牛革に付着する漆の量は微量なので、牛革の質感が残ります。	

「拭き漆」（濃い目） あえて上記工程を繰り返し、牛革の凸凹を残しつつ、結果的に漆が何層も塗られるので色も濃くなります。	
「紺生地胴」 竹の上に紺色の布を貼り、その上に牛革を貼ります。牛革の微妙な厚みの違いや接着の状態によって下の布の見え方が変わりますので2つとして同じ模様はありません。 他にも赤い布を用いた「赤生地胴」、黒い布を用いた「黒生地胴」等があります。 また、文字を書いた布を使ったものもあります。	
「押し葉風？」 布の上に乾燥させた葉を乗せてから牛革を貼ります。モミジの葉は好む方が多いですね。日本人の好みですかね。大きさや配置は作る人のセンスですね。	
「なんでもあり」 自分のお気に入りの形の型紙を挟んだり、文字を書いた布や、お気に入りの絵を描いた布を貼ったりする等の工夫をして作る方もいらっしゃいます。	 ※

ドラえもんは皆に好かれそうで楽しそうですね。	 ※

さてさて、次は牛革の上に別の動物の皮を貼った胴の話です。

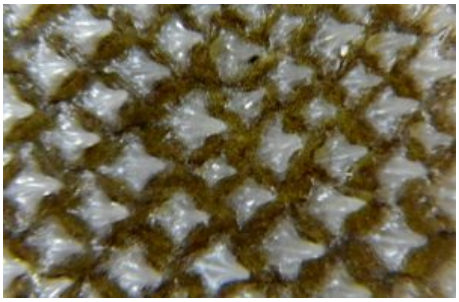
人は、有史以前から獣の皮を敷物や防寒着等に使っています。戦国時代、北国の武将等も上等に仕上げられた毛皮をまとっていたようですので、獣の皮を胴に貼るという発想は、普通のことだったのかもしれません。30～40 年以上の昔は、毛皮の胴は一般的に流通していて多かったと聞いています。近年、減ってきたのは動物保護の為の条約等の影響があって、そもそも作る材料が入手しにくくなっていると思われます。

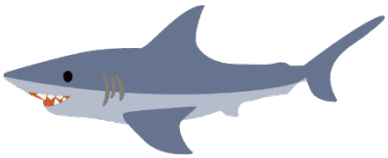
いくつか紹介します。

【イノシシ】 毛皮の胴の中で多いのはイノシシです。とても暖かそうで極寒仕様って感じですね。毛の長さは 5，6 ㎝くらいありそうです。打ったらどんな音がするのでしょう。。。	
【アザラシ】 海の動物ですが、意外に耐久性は非常に良いそうです。写真は私の自作胴ですが、使うほどに毛が柔らかくなってきたような気がします。この毛皮には斑点模様（ゴマアザラシ）もあります。現在では本毛皮の輸入はワシントン条約で規制されています。	

【ダチョウ】 “オーストリッチ”と呼ばれている革です。とても丈夫なのでバッグやベルトなどにも多用されています。丸い突起状の模様が特徴的です。ダチョウは 1993 年まで南アフリカの独占畜産業でしたのでこの革のほとんどが南アフリカ製です。胴にも使われたのは近年のことです。	
【エイ】 この胴は“鮫胴” と呼ばれます。丸いつぶつぶが特徴的です。元々が非常に硬い革なので写真の様に美しく仕上げるまでにとても大変な労力を必要とします。独特な輝きをもっていてこの胴を着けているだけでとても強く見えそうです。	 ※

他にも、熊とかアシカとかクジラとかありそうだと思ったのですが、残念ながら見たことがありません。最後の“鮫胴”は、“エイ”の革なのに、なぜか“鮫胴”と呼ばれます。実は“エイ”と“鮫”は生物分類上、「軟骨魚網板鰓類（なんこつぎょこうばんさんるい）」という同じ仲間なのです。彼らの体はアゴを除くと骨格がありません。その代わり皮膚は硬くてザラザラしています。それは「楯鱗（じゅんりん）」と呼ばれる歯と同じ成分からできている皮膚なのです（右図）。「鮫肌」と言いう言葉は、まさにこの皮膚の様相から使われるようになった言葉です。さて、この革は成分ですから加工するには相当な工程とエネルギーが必要になります。胴台に貼るには、革を綺麗に剥がして、革自体をなめして表面も裏面も研磨する必要があります。そしてその上から漆を塗ります。完成された鮫胴は、その輝きが素晴らしいです。ちょっと存在感が他の胴と違う気がします。なんちゃって職人；清水には、10 年かけても作れそうにありません…





…でも、エイと鮫は全然違う生き物と思っていました。私も。

最後に、自然の樹木の皮を使った胴を紹介します。

この 2 つの胴は、どちらも同じ種類の胴です。※

1780 年頃、現在の秋田県仙北市角館（せんぼくしかくのだて）で発祥された樺細工（かばざいく）という工法を用いた胴です。樺細工は、現在でも職人さんが、この技法を受け継いで伝統工芸品を作られています。樺といっても白樺ではなくて、桜なのです。奈良時代では、桜を「迦仁波（かには）」と言っていたものが「樺」に転化したのが語源だそうで、もともとは樺＝山桜だったのです。つまり、この胴は桜の樹の皮を貼った胴なのです。

この胴の工程もエイの革と同等もしくはそれ以上の時間と行程を必要とします。簡単に説明すると、

1） 山桜の樹から特殊な刃物で樹皮をはぎとります。剥いだ皮は約 2 年かけて乾燥させます。
2） 樺の皮はその状態や色から 12 種類に分けられます。乾燥して丸まった皮に、濡らしたコテを熱して蒸すようにして延ばしていきます。その後、表面を特殊な刃物で削ります。
3） 膠（にかわ）と呼ばれる、動物の皮からとれるゼラチンを塗って乾かして光沢をつけます。
4） 胴台に貼ります。前号でも清水が苦労した話を書きましたが、胴の湾曲に合わせて貼りますので、相当な経験と技術がないと綺麗に貼れません。適度な湿り気や熱を与えて胴台に合わせて変形させます。接着剤には膠を使います。
5） 研草（とくさ）やムクの木の葉といった天然素材を用いて樺の表面を何度も研磨して光沢を出していきます。（昔は紙やすりなどありませんでしたので、このような天然素材が使われていました。現代でも樺細工は天然素材で研磨されています）
6） 強度を増すために漆を塗って仕上げる場合と、あえて漆を塗らないで仕上げる場合があります。

ざっとこんな工程ですが、もはやこの胴は芸術作品だと私は思います。
では、また次回。

※画像は Facebook「剣道具大好き倶楽部」から引用

石井のetc日記

秋のファッション講座

ハカマのスソをまとめても やっぱり
ひっかかりやすいので、十分注意しましょう!! ←自戒